

(提案様式1)

平成24年1月17日

# 提 案 書

申請団体名 (社) 福島県建築士会福島支部  
代表者名 支部長 阿部 良樹  
代表者住所 福島県福島市五老内町 2-10 アスカビル 1F  
電 話 : 024-536-0354  
FAX : 024-536-0358

主な活動地域 (複数ある場合は優先を付けて①,②...,⑧と表示してください)  
※会社の現住所ではなく、住宅供給活動を行う地域としてください

⑦喜多方

①県北

②相双

⑥会津若松

③県中

⑧南会津

④県南

⑤いわき

団体内の総会社数 ( 43 社 )  
総業種数 ( 14 種 )

	代表設計事務所	代表工務店	林業・木材関係 事業者
会社名	松本建築設計事務所	(株) 黒澤工務店	千葉製材所
住所	福島市渡利字天神 27-9 メゾン天神橋 103 号	福島市八木田字中島 152-4	南相馬市原町区牛 来字穴田 42-1
電話番号	024-528-0561	024-545-3356	0244-22-8111
代表者名	松本 和彦	黒澤 信之	千葉 喜之助
設計事務所登録番号／ 建設業登録番号／ 木材業者登録番号	福島県知事登録 第 11(006)2074 号	福島県知事 許可 (般-19) 第 28061 号	第 72033 号

(提案様式 2 - 1)

**連携団体内会社一覧**

<b>設計事務所 8 社</b> ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な分野
1	西信建築設計事務所	福島市	阿部 良樹	意匠設計
2	松岡設計	福島市	後藤 善次	積算・市議
3	佐久間秀一級建築士事務所	福島市	佐久間 秀	構造設計
4	アルトプランルーム	福島市	鈴木 深雪	意匠設計

<b>施工 10 社</b> ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	職種
1	齋藤建築	福島市	齋藤 弘昭	工務店
2	菅野建設	福島市	菅野 悦司	工務店
3	(有)本田インテリア	福島市	本田 裕一	内装工事
4	ユア・ライブズ	福島市	霜山 彰	工務店

<b>林業・製材業 6 社</b> ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	(有)風間材木店	福島市	風間 良一	製材業
2	(有)花の木製材所	川俣町	菅野 正裕	製材業
3	木村産業(株)	福島市	木村 豊	製材業
4	(有)野田製材所	伊達市	野田 忠幸	製材業

<b>資材メーカー 4 社</b> ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な取扱
1	(株)菅田	川俣町	菅田 幸男	建材総合
2	Y K K a p	東京都千代田区	堀 秀充	金属建具
3	住友林業ｸﾚｽﾄ(株)(東ﾌﾟﾗ)	名古屋市中区	安田 敏男	内装建材
4	クリナップ(株)	東京都荒川区	井上 強一	住設機器

<b>宅建業 6 社</b> ※提案様式 2 - 2 に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	備考
1	福島住宅情報(株)	福島市	宮崎 秀雄	
2	(株)大樹不動産販賣	二本松市	桑原 三夫	
3	アイワ都市開発(有)	相馬市	櫻井 州雄	
4	双葉不動産	浪江町	石田 全史	

(提案様式 2 - 2)

その他 <u>7 社</u> ※提案様式 2 - 1 に記載した数を除く				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	(有)清野建築設計事務所	福島市	清野 春男	設計事務所
2	木村建築設計事務所	福島市	木村 春夫	設計事務所
3	和田建築設計事務所	福島市	和田 聡史	設計事務所
4	高橋設計事務所	福島市	高橋 信裕	設計事務所
5	文化設備工業㈱	福島市	川津 博彰	設備工事
6	大槻電設工業㈱	福島市	大槻 博太	電気工事
7	丸三木材㈱東北プレカ ットワークス	二本松市	前田 英俊	プレカ ット
8	ブル・ケン東北	仙台市	石嶋 日出男	プレカ ット
9	三浦恵子司法書士事務所	福島市	三浦 恵子	司法書士
10	ブレーンエイト	福島市	齋藤 潔	測量会社
11	(有)三浦測量設計事務所	福島市	三浦 一夫	土地家屋調 査士
12	(株)植留緑化土木	福島市	伊藤 良一	造園・除染
13	(株)ライフ・エステート	福島市	佐藤 哲男	宅建業
14	東栄物産㈱	福島市	安部 宏	宅建業
15	アイワビルド(株)	相馬市	櫻井 州雄	施工
16	松崎建設(株)	福島市	松崎 益一	施工
17	(有)喜古工務店	福島市	喜古 勝弘	施工
18	尾形工匠店	福島市	尾形 浩美	施工
19	(有)リスクマネジメントハ ウス	福島市	宮崎 秀剛	ファイナンシャルプ ランサー・保険
20	東邦銀行	福島市	北村 清士	銀行

※提案様式 2 - 1 に記載できない会社を記入してください。

今後、連携を検討している業種及び会社数

業種	会社数	業種	会社数
設計事務所	1 0		
施工	5 5		
資材メーカー	9		

(提案様式3)

## 団体の活動内容（実績）

団体の過去3年間における活動内容 【住宅には『木造公営住宅』含む】

### 1. 年間住宅設計棟数（団体内の設計事務所合計の3年間平均）

71棟      うち、設計性能評価取得      1棟  
うち、長期優良住宅の認定      1棟

### 2. 年間住宅新築施工棟数（団体内の工務店等合計の3年間平均）

56棟      うち、建設性能評価取得      4棟

### 3. 年間住宅増改築施工棟数（団体内の工務店等合計の3年間平均）

241棟

### 4. 年間土地販売件数（団体内の宅建業等合計の3年間平均）

141件

### 5. 県産材・地域材の活用実績（○をつけてください）

- ①. 材料の半分以上は県産材・地域材を活用      b. 建て主の要望に合わせて対応  
c. 材料があれば県産材・地域材を活用      d. 県産材・地域材は活用したことはない

### 6. 再生可能エネルギーの導入（○をつけてください）

- a. ほぼ100%導入している      ②. 建て主の要望に合わせて対応  
c. 利用したことはない

### 7. 景観・地域特性への配慮（項目ごとに○をつけてください）

- ①. ほぼ100%配慮している      b. 建て主の要望に合わせて対応  
c. 配慮したことはない

### 8. 各種手続き等代行（項目ごとに○をつけてください）

①登記      ②減税      ③融資      ④保険

- ①.      ①.      ①.      ①.      代行（協力）を常に行っている  
b.      b.      b.      b.      建て主より依頼があればしている  
c.      c.      c.      c.      行っていない

### 9. 施工した住宅の維持管理（○をつけてください）

- ①. 期間を定めて点検      b. だいたいの期間が過ぎたら点検  
c. 建て主の依頼に合わせ点検      d. 点検業務は行わない

### 10. 住宅情報履歴の作成（○をつけてください）

- ①. 新築だけでなく、増改築時でも作成      b. 新築時のみ作成  
c. 要望があれば作成      d. 作成したことがない

### 11. その他、実績のPR（カッコ内を参考にし、削除して記載してください。）

本団体は、震災の翌日から応急危険度判定活動を行い、延べ59人が参加しました。  
その後消費生活センターからの依頼による被災者の住宅相談40件、新地町・福島市  
において罹災証明の判定業務を受託し1月16日時点で延べ1,281件の判定を行う等  
（現在も継続中）資格者団体としての責務を果たしてまいりました。

(提案様式 4 - 1)

## 団体の基本方針・具体的手法

※「基本方針例（別紙Ⅱ）」を参考にしてください。

### 1. 連携体制の規模、多様性

<p>(基本方針)</p> <p>1. 連携体制の規模：年間 50 棟～100 棟程度の復興住宅を供給できる規模の連携体制を整えます。</p> <p>2. 連携体制の多様性：被災者が復興住宅を建設する際に、窓口ひとつでワンストップサービスが可能となる多様な専門家との連携体制を整えます。</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>(社)福島県建築士会福島支部は会員数 327 名、協賛企業 20 社で構成されています。</p> <p>会員は全て建築士で、主に設計事務所、建設会社・工務店・大工、内装工事会社、設備工事会社、電気工事会社、建材販売会社等で構成されており、住宅建設に必要な企業は一通りそろっています。</p> <p>今回はこれに各会員企業が通常業務の取引先等として連携している林業・木材関係事業者、宅建業者、ファイナンシャルプランナー、司法書士、保険会社等を連携会社として復興住宅の供給にあたっていきます。また被災した企業・風評被害に苦しむ企業等とも積極的に連携していきます。</p>

### 2. 事業の実現性（供給計画 3 カ年程度）

<p>(基本方針)</p> <p>1. 供給計画：年間 50 棟～100 棟、3 年で 150 棟～300 棟の供給を目指します。</p> <p>2. 長期計画：長期にわたり連携可能な体制を作ります。</p> <p>3. 団体解散後の規定：応募グループ解散後は支部会員内の企業に引き継ぐ体制をつくります。</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>1. 供給計画：供給計画の棟数は、本グループの実績数から勘案して算出しました。また、今回グループに入っていない建築士会福島支部会員で今後連携予定の工務店ともネットワークがあるため、需要が多い場合はすみやかに協力依頼をする体制が整っています。さらに、他支部とのネットワークがあるためエリアを拡大しての応援要請が可能です。</p> <p>2. 長期計画：建築士会とは建築士法の規定により都道府県ごとに設立されている公益法人で、地域社会に貢献し安全で安心な住まいづくりを行っています。(社)福島県建築士会福島支部は基本的に解散することがなく存続していくため、長期的・組織的に復興住宅とその入居者を支援していくことが可能です。役員等が改選になる場合は担当者を引き継ぎ担当委員会で対応を協議していきます。</p> <p>3. 団体解散後の規定：基本的には担当した会社が維持管理や修繕に対応します。応募グループが解散した後は、応募グループ事務局から住宅履歴情報(竣工図・工事写真・CAD データ・確認申請書写し)等を建築士会福島支部に引継ぎ、何らかの理由で担当した会社が維持管理や修繕にあたれない場合は支部が窓口となり修繕等を引き継ぐ企業を紹介するなどして対応します。</p>

(提案様式4-2) 団体の基本方針・具体的手法

3. 復興住宅コンセプト(維持管理、プラン、環境対応、コスト、地域性等)

<p>(基本方針)</p> <p>“うつくしま” ふくしまの家”</p> <p>「う」 うみ育てのしやすい家(子育て)      「つ」 つながりのある家(地域コミュニティ)</p> <p>「く」 くらしやすい家(地域の気候)      「し」 しぜんを取り入れた家(環境対応)</p> <p>「ま」 まちづくりの核になる家(災害に強いまち)、をキーワードとします。</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>「う」 うみ育てのしやすい家: シンプルだが無駄がなく、同じコストでも最大限有効な広さがとれる、また家族構成の変化に伴い増築・改築可能なプランとします。</p> <p>「つ」 つながりのある家(地域コミュニティ): 居間・茶の間・濡れ縁や庭・家庭菜園などのセミパブリックなスペースを有効に配置し、家族や地域の人と語り合うつながりのある家とします。</p> <p>「く」 くらしやすい家(地域の気候): 地域の気候風土に配慮し、深い庇のデザイン、積雪・凍結・季節風に配慮した家とします(南入りの玄関など)。</p> <p>「し」 しぜんを取り入れた家(環境対応): 光・風を十分取り込めるようなつくりとし、中間期には冷暖房が不要となるような家づくりをします。また太陽光発電を将来屋根に載せられるような屋根の形状としておきます。次世代省エネルギー性能表示等級4を想定しています。</p> <p>「ま」 まちづくりの核になる家(災害に強いまち): 集落がひとまとまりの景観となっていて、建物によって地域の連帯感がもてる、そしていざというときは住民同士が協力して防災に取り組めるようなまちづくりを目指します。</p>

4. 品質、性能確保

<p>(基本方針)</p> <p>1. 性能評価や長期優良住宅の認定に対応していきます。</p> <p>2. 第三者による監督を行います。</p> <p>3. 住宅履歴情報等を整備します。</p> <p>4. トラブルが発生した際の対応について。</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>1. 性能評価の等級設定を行います。想定している性能は、構造の安定耐震等級2、火災時の安全等級1、劣化の軽減等級2、維持管理更新への配慮等級2、音熱環境省エネルギー対策等級4、空気環境等級3、高齢者への配慮等級は家族構成に応じて設定する等です。</p> <p>2. 事務局が調整し第三者の担当者を選び、第三者的立場から実際に設計・施工にあたる担当会社を監督します。具体的には工事の段階で2回程度検査を行います。</p> <p>3. 事務局内に住宅履歴情報(竣工図・工事写真・CADデータ・確認申請書写し)等を各担当者より提出することを義務付け、保管管理します。</p> <p>4. トラブルが発生した際は担当設計・施工会社が基本的には責任をもって対応しますが、事務局が第三者的立場での相談にも対応します。</p>

## 5. 県産材・地域材の活用

<p>(基本方針)</p> <p>県産材・地域材を活用します。</p> <p>被災地にある工場の製品などを積極的に活用していきます。</p> <p>放射線の低減効果のある屋根、外壁材等の開発を地元メーカー、地元大学、県等と協力して行い復興住宅に使用していきます。</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>県産材を構造躯体に使用していきます。柱：杉 梁：杉（はりせいを少し大きくして使用する）</p> <p>県産材のスギ板張りなどをふんだんに使用し「温かみ」や「ぬくもり」、「肌触り」や「香り」などにより、子どもからお年寄りまで安全で心と体にやすらぎのある環境を作ります。</p> <p>コンクリートや水等を利用して、建物内の放射線量を効果的に下げる方法を検証していきます。</p>

(提案様式 4－3)

### 団体の基本方針・具体的手法

## 6. 各種手続き代行

<p>(基本方針)</p> <p>資金計画の相談、</p> <p>登記の手続き</p> <p>減税手続きの書類作成等</p> <p>火災保険等の紹介</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>施主が希望する場合は各種手続き（資金計画・登記・減税・保険等）をひとつの窓口で（ワンストップサービス）代行できる体制を整備します。今回の応募グループにも、ファイナンシャルプランナー・銀行・司法書士・土地家屋調査士・保険代理店などが連携会社として参加しているので、担当者が窓口となり全ての連携会社に連絡をとり、施主に書類を渡すことを考えます。</p>

## 7. ふくしま（地域）らしさの取り入れ

<p>(基本方針)</p> <p>ふくしまは農業県で、郊外には今でも田園風景がひろがっています。そのなかに集落があり、集落の中には一人ぐらい大工さんがいてその人が集落の建物の新築から修繕にかかわることで集落の建物は維持されてきました。そういった伝統的な集落の持続可能な住宅をモデルとしてデザイン・プラン、維持システムに応用していきます。</p>
<p>(具体的手法)</p> <p>田園風景になじむ伝統的な真壁構造風の外観デザインとし、地元の大工が施工しやすい伝統構法を用います。担当する大工はできるだけ家が近くの人を選び、原発事故などで馴れない土地に避難してきて不安を抱える人が、新たな生活を始めるにあたって、住宅建築以外にも地域の風習・行事などに関しても相談できる人として関わられるようにします。夏にはわらじ祭りに参加します。</p>

## 8. 地域における先導性（活動）

<p>（基本方針）</p> <p>住宅づくりが地域の模範、地域住民への相談活動等</p> <p>若い担い手や女性技術者の育成と加工技術の継承</p> <p>産学官連携による耐放射線外装材の研究、開発と知的財産の取組</p>
<p>（具体的手法）</p> <p>若手や女性の技術の習得のために、復興住宅という連続性のある建設を利用し、繰り返すことにより完全な継承を行います。また子供たちや専門学校生などに対して見学会などを開催して、担い手育成や発掘の機会をつくります。</p> <p>今後原発立地県で需要が想定される、低線量に対しての耐放射線や除染しやすい屋根、外壁材等の（仮称）「うつくしまタイプ」材をメーカーと地元大学、県が協力してブランド品の開発を行います。</p>

（提案様式 4－4）

### 団体の基本方針・具体的手法

## 9. 原子力事故及び風評被害対応

<p>（基本方針）</p> <p>敷地、土壌の放射能に対する対処</p> <p>木材等の放射能についての対処</p>
<p>（具体的手法）</p> <p>施主が放射能・放射線の不安を取り除くため必要なことを希望する場合に対応できるように、放射能対策を施すためのバリエーションを準備します。例えば1階を鉄筋コンクリートとして放射線が室内に入りにくい構造にする（ローコストで工期の短いRCの設計）、放射能のついた砂ぼこりがつかないように洗濯物を部屋干しできるサンルームをつくる、放射能を除去するフィルターを備えた給気システムをオプションで準備するなどが考えられます。</p> <p>木材は製材後の出荷前に放射線量を検査して安全を確認してから出荷します。</p> <p>また建材は現場で放射線の受け入れ検査をすることも考えます。</p>

## 10. 省エネルギー、再生可能エネルギーの活用

<p>（基本方針）</p> <p>省エネルギー、再生可能エネルギーの活用をしていきます。</p>
<p>（具体的手法）</p> <p>次世代省エネルギー性能表示等級4（ペアガラス・断熱サッシ・高性能グラスウール・LED照明の採用等に対応）の性能を想定しています。また再生可能エネルギーの活用方法として太陽光発電を将来屋根に載せられるような準備として乗せやすい屋根形状としておく、配管を準備しておく等の措置をしておきます。さらに何棟かまとまった団地の場合、地中熱利用の共同システムを検討するなど、集落単位での設備計画もしていきます。</p>



( 提案様式 5 )



MODELPLAN A

**復興住宅コンセプト**  
「うつくしま」ふくしまの家  
「う」うみ育てのしやすい家(子育て)  
「つ」つながりのある家(地域コミュニティ)  
「く」くらしやすい家(地域の気候)  
「し」しぜんを取り入れた家(環境対応)  
「ま」まちづくりの核になる家(災害に強いまち)  
をキーワードとし、

「う」うみ育てのしやすい家：シンプルだが無駄がなく、同じコストでも最大限有効な広さがとれる、また家族構成の変化に伴い増築・改築可能なプランとします。

「つ」つながりのある家(地域コミュニティ)：居間・茶の間・濡れ縁や庭・家庭菜園などのセミパブリックなスペースを有効に配置し、家族や地域の人と語り合うつながりのある家とします。

「く」くらしやすい家(地域の気候)：地域の気候風土に配慮し、深い庇のデザイン、積雪・凍結・季節風に配慮した家とします(南入りの玄関など)。

「し」しぜんを取り入れた家(環境対応)：光・風を十分取り込めるようなつくりとし、中間期には冷暖房が不要となるような家づくりをします。また太陽光発電を将来屋根に載せられるような屋根の形状としておきます。次世代省エネルギー性能表示等級4を想定しています。

「ま」まちづくりの核になる家(災害に強いまち)：集落がひとまとまりの景観となっていて、建物によって地域の連帯感もてる、そしていざというときは住民同士が協力して防災に取り組めるようなまちづくりを目指します。



MODELPLAN B

建物は2間×2間グリットを4個組み合わせたシンプルな構造とし、ローコスト化を図る

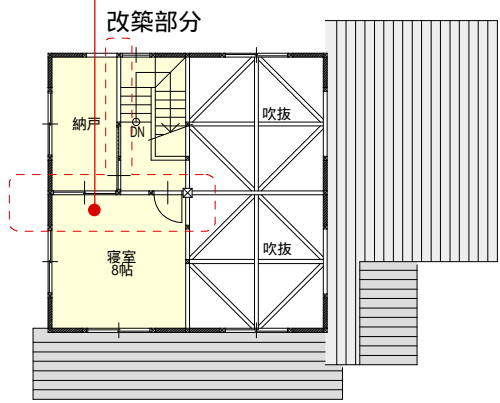
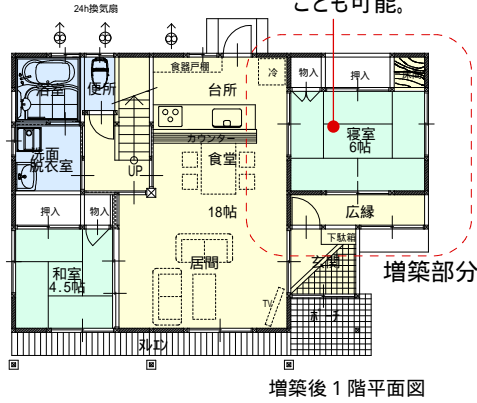
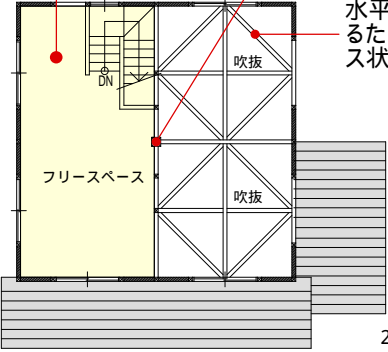
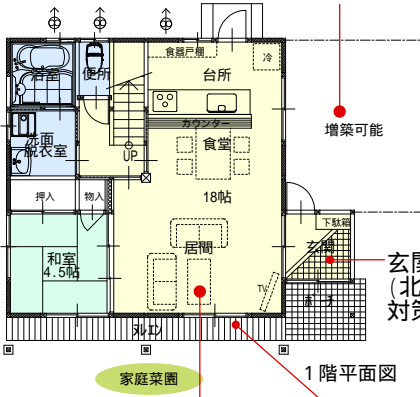
家族構成の変化に対応できるように、敷地内に増築可能なスペースを残しておきます。

当初の建設コストを抑え大工仕事を継続させるフリースペース。間仕切りや仕上げは余裕ができてから行います。

家の中心の大黒柱は構造強度にも有効

想定している増築後の間取りの一例。敷地の大きさによっては和室2間にすることも可能。

フリースペースに間仕切りを作り個室化し、仕上げを行ったという想定図。



南側の日当たりがよい場所に居間と和室(茶の間兼寝室)を配置。

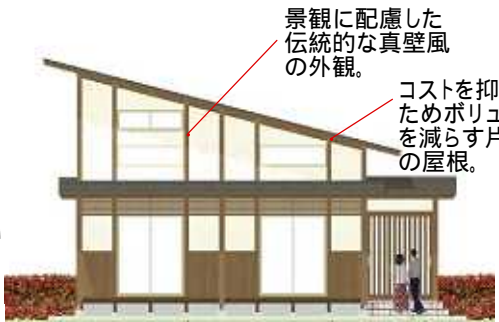
濡縁はご近所の方々と気軽に話える場

延べ床面積： 82.80㎡(25.0坪)  
1階床面積： 56.31㎡(17.0坪)  
2階床面積： 26.49㎡( 8.0坪)

延べ床面積： 82.80㎡(30.0坪)  
1階床面積： 72.87㎡(22.0坪)  
2階床面積： 26.49㎡( 8.0坪)

**モデルプラン A**  
高齢の夫婦二人暮らしを想定。  
1LDK + フリースペースの計25坪に面積を抑え低価格で提供できるように考えたモデルプランです。4間×4間の中に最大限の有効面積を確保できるプランとしました。また、家族構成の変化に応じて東側に増築できるスペースを確保してあり、2階は間仕切りをすることで将来個室にすることも可能になっています。

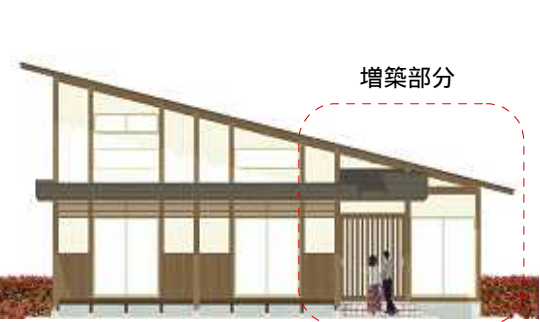
概算建設費 1,100万円



南立面図



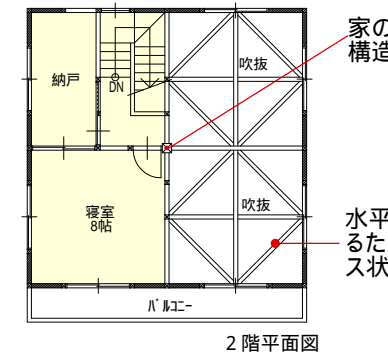
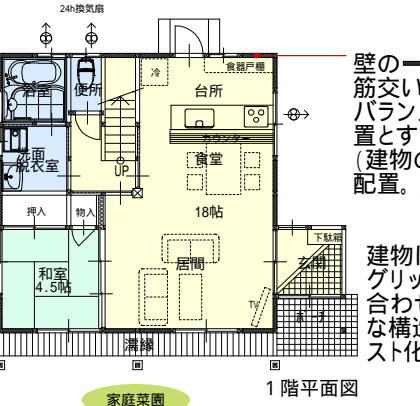
西立面図



増築後南立面図

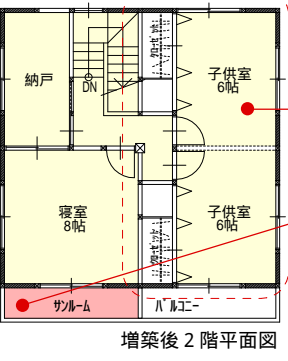
## 1LDK + フリースペース 3LDK

## Model plan A



家の中心の大黒柱は構造強度にも有効

水平剛性を確保するため火打ちをトラス状に、耐震等級2



子供室は家族構成変化に応じて吹抜(無室)から1室12帖6帖×2室へ対応する

放射能対策で外で洗濯物を干さない人等のためにサンルームをオプションで準備。

延べ床面積： 82.80㎡(25.0坪)  
1階床面積： 56.31㎡(17.0坪)  
2階床面積： 26.49㎡( 8.0坪)

太陽光発電をのせられるように切妻屋根としておく

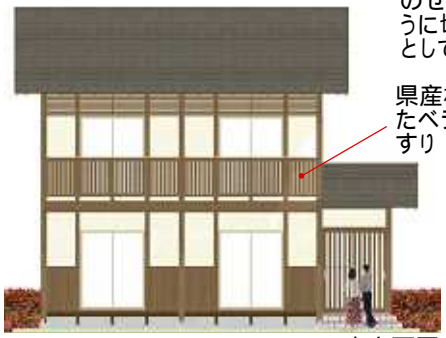
県産材を使ったベランダ手すり

深い庇  
建物の劣化を防ぎ、夏の日差しを遮り冬の日差しを室内に取り込みます。

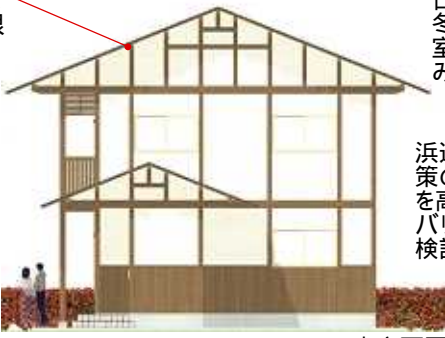
浜通りは津波対策のため、基礎を高床式にしたバリエーションを検討。

延べ床面積： 109.30㎡(33.0坪)  
1階床面積： 56.31㎡(17.0坪)  
2階床面積： 52.99㎡(16.0坪)

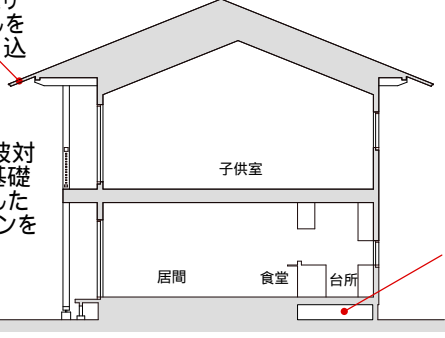
水周りの床下には配管ピットを設けます。



南立面図



東立面図



断面図

**モデルプラン B**  
若い夫婦二人暮らしを想定。  
2LDK + 吹抜の計25坪で考えたモデルプランです。モデルプランA同様4間×4間の中に最大限の有効面積を確保できるプランとしました。また家族構成の変化に応じて東側に増築できるスペースを確保し、さらに2階にも子供部屋を増築できるスペースを準備してあります。

概算建設費 1,300万円

**団体概要**  
(社)福島県建築士会福島支部は会員数327名、協賛企業20社で構成されています。  
会員は全て建築士で、主に設計事務所・建設会社・工務店・大工、内装工事会社、設備工事会社、電気工事会社、建材販売会社等で構成されており、住宅建設に必要な企業は一通りそろっています。  
今回はこれに各会員企業が通常業務の取引先等として連携している林業・木材関係事業者、宅建業者、ファイナンシャルプランナー、司法書士、保険会社等を連携会社として、復興住宅の供給にあたっています。また被災した企業・風評被害に苦しむ企業等とも積極的に連携していきます。

(社)福島県建築士会福島支部 TEL024-536-0354

2LDK + 吹抜 4LDK

## Model plan B